

キャリア教育科目「キャリアデザイン1」の授業デザイン — 2年間の実践と今後の展開 —

鈴木 浩子*

1. はじめに

「キャリアデザイン1」は明星大学の「社会的・職業的自立促進科目群」の自由科目として2015年後期から開講された。この授業は、明星大学のキャリア教育の特色である体験的な学習方法を用いながら、理論や概念の学習を取り入れることを意識してデザインされている。初年度は、履修者を1年生に絞り、30名のクラスで実施した。2年目(2016年度)は、77名の中規模クラスとなり、授業デザインに改善が必要となった。

本稿では、2年間の実践を振り返り報告するとともに、履修者数の変化に伴い実施した授業デザイン変更と、今後検証が必要になると考えられる点について述べる。

2. 「キャリアデザイン1」の概要

2-1. 体系的キャリア教育科目

明星大学のキャリア教育プログラムは、「職業を持つ社会人として自分の人生を生き生きと過ごしていくために身につけておきたいことを学ぶため」に体系的に構成されている。(p.69「明星大学の体系的キャリア教育プログラム」参照)

キャリア教育科目全体の教育目標は、①自己実現を目指し、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てる、②生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成、である。また、到達目標は、①体験活動を通して、自分の生き方を考えられるようにする、②自立する人間として、自らの生き方について、自分自身で考え決断し行動できるようにする、③自らの人生を生き、働くことが社会貢献につながる基礎を作る、④人生を通じて学び続け、働くことを楽しめるようにする、である。

授業の共通の特徴としては、①学部学科混合クラスによる多様性の中での学び、②アクティブラーニングの手法を取り入れた協同学習、③振り返りの重視(体験学習のプロセスの実践)、④ファシリテーターとしての教員の関わりがあげられる。

2-2. 「キャリアデザイン1」の位置づけ

「キャリアデザイン1」は、従来開講されていたキャリア教育の授業とは異なる切り口で授業をデザインすることにより、多くの学生にキャリア科目を受講する機会を提供することを目指して、2015年度に新規開講された。

キャリア教育科目全体の4つの特徴は残しながら、さらに⑤キャリアに関する理論や概念を知的に理解し、それをもとに考え、自らの考えを表現するという点を加えている。アクティブラーニング型の協同学習に苦手意識を持っている学生や、知的理解を好む学生のニーズ(期待)に応え、自由科目授業を履修する学生を増やしたいという意図があった。

* 明星教育センター 特任准教授

2-3. 授業概要

「キャリアデザイン1」の教育目標は、①キャリアデザインの理論学習に基づき、キャリアの考え方を知る、②個人ワーク・グループワークを行い、自身の勤労観・職業観を育成する、③社会に出て働くことの様々な側面について知る、である。また行動目標・到達目標として、①卒業後に社会人として活躍していくために必要な意識が醸成される、②キャリアに関する知識や理論を学び、自身のキャリアを考える方法が身につく、③キャリアについての考え方を、他者に説明できる、を目指している。

授業内容は、表1、表2のとおりである。

表1 2015年度授業内容

■個を理解する	
1	オリエンテーション
2	パーソナリティ
3	人の生涯に関わる発達
4	コンピテンシー
■キャリアに関する理論を理解する	
5	意思決定
6	ライフステージとキャリア
7	モチベーション
8	働く上でのストレス
9	キャリアをデザインする
■組織の中で働くを理解する	
10	働く若者を取り巻く社会環境
11	ダイバーシティ
12	リーダーシップ
13	アサーション
14	今後の計画を立てる
15	まとめ

表2 2016年度授業内容

■キャリアデザインの基本	
1	オリエンテーション
2	さまざまな働き方
■個を理解する	
3	人の生涯に関わる発達
4	パーソナリティ
5	コンピテンシー
■キャリアの理論で自分の生き方を考える	
6	意思決定
7	ライフステージとキャリア
8	モチベーション
9	働く上でのストレス
10	キャリアをデザインする
■働く自分を考える	
11	働く若者を取り巻く社会環境
12	自分の働き方を考える
13	ダイバーシティ
14	アサーション
15	今後の計画を立てる

授業の進行手順は構造化し、学生にも前もって説明した。それにより学生が主体的に授業に取り組む意欲を持てることを目指した。2016年度の進行手順（授業ルーティン）は次の通りである。まず開始前に授業資料を取り、そこに記載されている番号の席に座る。これにより毎回異なるメンバーとの4人グループが形成される。授業はグループメンバーの名前を提出シートに記入し、授業内容に関連したアイスブレイクテーマで話し合いをするところから始まる。その後は各回のテーマに合わせて講義・個人演習・グループ演習・全体共有を組み合わせて授業が行われる。最後に、授業テーマの理解確認と演習の振り返り、概念化を目的としたリアクションシート（200字～300字）を記入し、提出して授業を終える。

授業は、2人の教員の共担で実施した。担当者がそれぞれの時限の授業デザイン、教材開発の案を作成し、毎週2人の教員で意見交換を行い、改善案を出し合った。それにより授業構成や手法に関して、より良い方法を検討することができた。また毎週授業内容を検討することで、学生の現状に合わせて授業デザインを再検討することができ、結果的に当初予定していた授業内容を変更した授業回もあった。

成績評価は、毎回のリアクションシート、提出レポート（800字2回）、授業参加態度（グループワークへの参加・出席等）により判断し、「合・否」で評価した。これは、体系的キャリア教育科目全体の方針に沿ったものである。

3. 2年間の実践結果

3-1. 2015年度の実践結果

2015年度の履修者数は30名で、出席率の平均は77.7%であった。単位修得率は84.6%で、単位修得者の出席率は83.9%となった。

15回目の授業で終了時アンケート（授業内実施・記名式）を実施した。行動目標・到達目標に関して達成度を4件法で尋ねたところ、知識の獲得・意識の変化については90%が肯定的に（「十分に達成された」+「割と達成された」）回答した。一方授業で学んだ知識の活用に関しての達成度では、肯定的回答が70%にとどまった。履修動機の達成度など満足度について尋ねた設問では95%の学生が肯定的に回答した。また、授業内容は95%、授業の進め方は89.5%が肯定的な回答だった。改善が必要な点としては、授業の中でグループワークの時間を増やしてほしいという意見が多かった。

「キャリアデザイン1」は、「キャリアに関する理論や概念の理解を基盤に、個人ワークやグループワークを展開する授業」として新規開講した。初年度の実践の結果として、知識獲得については達成されたが、授業内の個人ワーク・グループワーク及び授業外での活用までは至らなかった可能性が考えられる。また、履修動機を尋ねたところ、「自分の将来を考える」「プレゼンテーション等のスキルを身につけたい」というものが多く、学習した知識をいかに活用するかという点を学生が意識していることが分かった。授業に対する満足度は高かったものの、学生の期待に応えていくことは必要だと考える。さらに「コミュニケーションを多くとるような授業が取りたい」といった記述があることから、結果的に従来のキャリア科目を履修していた学生と同じ層が履修しており、新しい層を開拓できていないのではないかと考えられる。

こういった結果を受けて、次年度に向けての課題として、学生の期待に応えるために「自身のキャリアを考える」授業内容の強化を挙げた。また授業の進め方の改善として事前学習（宿題）の見直し、さらに次年度から対象学年を広げることから学生数が増加した場合の対応も検討する必要があると考えた。

3-2. 2016年度の実践結果

2016年度の履修者数は77名で、毎回の出席者は60名程度である。後期授業であるため、授業の成果や評価については今後の検討としたい。ここでは、2015年度の実践を受けての改善や、履修者数が倍増し中規模程度のクラス運営となったことから実施した授業デザインの変更について整理する。

1) 2015年度の実践を受けての改善

知識獲得と共に、知識活用の要素を強化するために、15回の授業内容を再構築した。特に「第2回 さまざまな働き方」「第12回 自分の働き方を考える」を新しく加え、自分自身の勤労観・職業観獲得に役立てる内容を取り入れた。

授業の進め方としては、機能していなかった事前学習（宿題）を取りやめ、毎回の授業内で終了時に振り返りの文章を記述する方法に変更した。

2) 履修者数の増加による授業デザインの変更

グループ分けは、番号を割り振り毎回異なる4人グループを作る点は同様だが、時間短縮のため、椅子の向きのみを変えて机を挟んで向かい合う方式で4人グループを作った。

他のキャリア教育授業が20人から30人クラスを基本としているのに比べて、2倍程度の人数での授業実施となったため、「アクティブラーニングとは、自分の頭の中でアクティブに考えることが重要」という点を履修者に説明した。

この授業を受講する基本態度として、講義を聴いているとき、個人で考えているとき、グループで話し合っているとき、全てでアクティブに学ぶことを期待していると伝えた。

授業の進め方の構造化に関しては、2016年度に新たに次の項目を付け加えた。授業開始時のオリエンテーションでは、グループメンバーの名前をリアクションシートに記入し、授業内容に関連したアイズブレイクテーマで話し合いをるところから始める。進行は学生自身に任せた。グループワークも学生自身が進行していくため、個人ワークで記入するワークシートを工夫し、どのような内容を取り上げてグループワークを行うのかが分かりやすいように意識した。リアクションシートは、授業テーマの理解確認と演習の振り返り、概念化を目的としてテーマを提示し、200字～300字の文章を授業内で記述させた。

3) 現状から考えられる課題

授業を実施する立場として現状から考えられる課題は、グループワークの活性度のグループ毎のばらつきと、授業全体の緊張感の不足であろう。人数が増えたことにより教員の介入が減少することで、学生主体で実施する場面が増えることが影響していると考えられる。向後ほか(2012)は、グループワークによる実習授業のガイドラインとして、①90分間を構造化したタスクを明確にする(グループワークに制約をかける)、②役割を分担させ交流を促進する(フリーライダーを出にくくする)、③チームワークと公平性に気を配る(メンバーの組み合わせの公平性)を挙げている。今後の課題解決に、このガイドラインは参考にできるだろう。特に、時間制限、タスクの明確さ、役割分担については、すでに取り組んでいるものもあるが、さらに改善の取り組みが可能なのではと考える。

3. 今後の展開

2年間の実践を受けて考えられる、検証すべき課題は、次の3点である。

まず、学生の様々なニーズ(期待)に応えることで履修する学生を増やすという目的が達成されているのかについての検証が必要である。終了時アンケートの履修動機を見ると、従来のキャリア教育授業を履修している学生と同様の層が履修しているのではと想定できる。開始時に履修動機を尋ねるアンケートを実施すること、グループワーク型授業形式についての好みを尋ねる設問を加えることなどにより検証していきたい。

次に、知識を獲得することは、その後の個人ワーク、グループワークに影響しているのか、或いは影響していないのかも検証が必要である。リアクションシートの記述に「深く考えた」「深い授業」などの記述も散見され、深い学びにつながっている可能性は感じられる。この点については、今後「学生の学びの質」を調べていきたい。

3点目に、中規模の人数でグループワークによる実習授業を行う際には、どのような方法が効果的かという点についても検討が可能である。構造化することは効果的だが、パターン化し過ぎると学生が飽きてくる様子が見られた。またワークに制約をかけることで学生の主体性が阻害されることはないのか、主体性を育みたいキャリア教育において、どのような手法が効果的なのかについての検証も今後の課題としていきたいと考える。

参考文献

向後千春、富永敦子、石川奈保子「大学におけるeラーニングとグループワークを組み合わせたブレンド型授業の設計と実践」日本教育工学会論文誌36(3), 281-290, 2012

明星大学の体系的キャリア教育プログラム（参照：2016年「自立と体験1」ポートフォリオ p.4）

明星大学の体系的キャリア教育プログラム

明星大学には、職業を持つ社会人として自分の人生を生き生きと過ごして行くために身につけておきたいことを学ぶための体系的キャリア教育プログラムが用意されています。

明星大学におけるキャリア教育の教育目標	
1)	自己実現を目指し、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育てる。
2)	生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成。

明星大学におけるキャリア教育の到達目標	
1)	体験活動を通して、自分の生き方を考えられるようにする。
2)	自立する人間として、自らの生き方について、自分自身で考え決断し行動できるようにする。
3)	自らの人生を生き、働くことが社会貢献につながる基礎を作る。
4)	人生を通じて学び続け、働くことを楽しめるようにする。

4 年	卒業後に向けての準備		キャリアデザイン2	
	後期	<p>キャリアセンターの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就勝プロジェクト ・各種講座 等 		
3 年	前期	<p>自立と体験4（自由科目、3年前期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン ・自己理解 ・社会・企業・仕事 ・就業意識 ・自己表現 ・グループディスカッション <p>就職活動の前提となる就職力を身につける</p>		
	後期	<p>自立と体験3（自由科目、2年後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力 ・社会への関心 ・問題解決技法 ・意見を述べる ・議論する ・チームワーク ・キャリアデザイン <p>社会人基礎力を体験から学ぶ</p>	<p>キャリアデザイン2（自由科目、2年3年後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会で直面する問題のケースワーク・チーム活動 ・現実的態度・勤労観・職業観・主体的学び <p>社会に出て働く基礎知識・現実的態度</p>	キャリアデザイン1
2 年	前期	<p>自立と体験2</p> <p>（必修、学科科目、1年後期または2年前期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学での学びの意識と基礎力の育成 ・社会と働くことへの関心 ・将来を見据えてのキャリアデザイン <p>学科生としての自己実現の第一歩</p>		
	後期	<p>キャリアデザイン1（自由科目、1年2年後期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインの理論 ・勤労観・職業観 ・社会に出て働くイメージ ・個人・グループワーク <p>キャリアデザイン理論に基づく自己理解・就業意識</p>		
1 年	前期	<p>自立と体験1（必修、全学共通科目、1年前期）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を理解し目的を見つける ・人と関わる力をつける ・考える力をつける ・学ぶ力をつける <p>明星大学生としての自己実現の第一歩</p>		
	後期			

※「自立と体験1」「自立と体験3」「自立と体験4」「キャリアデザイン1」「キャリアデザイン2」についての問い合わせ先：明星教育センター

※「自立と体験2」についての問い合わせ先：教務企画課